



こいのぼりと色彩

Chieko Jones

International Section
Sydney Japanese School Ltd.
New South Wales, Australia



学習者年齢： 6～7才
日本語レベル： 初級
文化面の目的： 「子どもの日」の意味を知る
年中行事の背景にある文化的意味を学ぶ
学習する日本語： 色の名称やこいのぼりに関連した語句
数の数え方
“大きい、小さい、1まい、2まい”

学習目標

日本では、年間を通じてさまざまな行事が催される。これら年中行事の背景にある文化的意味を知ることができ、「子どもの日」に立てるこいのぼりには、たくましい子に育ってほしいという親の思いが込められていること、また、こいのように強い決断力と忍耐力を持って人生の困難に立ち向かう必要性があることなどを学ぶ。

色紙でこいのぼりを製作しながら、色の名称を覚えるとともに、魚、目、大きい、小さい、強いという単語を復習する。

授業の進め方

<用意する物>

- ・折り紙
- ・こいを作るための白い紙（大きいデモンストレーション用と各生徒用の紙）
- ・はさみ
- ・のり
- ・竹ざお
- ・糸

・北斎の版画のように、こいが滝を上っているような絵があれば飾る。

<進行方法>

1. デモンストレーション用の大きなこいを見せ、こいが急流や岩を越えて川を上ることを教師が説明する。その際、黒板に岩や急流のある川を描き、それを背景にこいを泳がせながら説明する。日本の人々が、こいの勇気と強さをたたえてこいのぼりを子どもの日に立てることや、こいのぼりが風に吹かれてたなびくと、川を泳いでいるように見えることを説明する。
2. 指示の書かれた用紙を使ってこいの本体を作る。
3. 半面16色の色紙のうろこを受け取り、枚数を数える（1まい、2まい）。
4. こいのぼりの片面に日本語で色の名称が書いてある。そこに色紙（うろこ）をはっていく。うろこの一端だけをのりづけし、後で色の名称を確認できるようにしておく。こいのぼりのもう片方の面は、次のレッスンの復習用に使う。
5. 糸でこいのぼりを竹ざおにくくりつける。

6. 日本の親が、人生の困難に打ち克つことのできる、強くたくましい子に育つように願いを込めてこいのぼりを飾ることを教師が説明する。
7. 全員でこいのぼりの歌を歌う。
8. 宿題として、こいのぼりについて学習したことを書いて提出する。

<色の名称に関する補足>

外来語として入ってきた色の名称、ピンク、オレンジ、グレー、ブラウンなどもよく使われる単語として教える必要があるが、従来から使われている桃色、だいたい色などの名称を使うことにより、話題を広げることができる。例えば、だいたいは日本の果物であり、「代々」という音に掛けて、お正月などのめでたい飾りとして使われることなどを説明する。